室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

工業都市室蘭における初動期の都市景観行政に関する報告

その他（別言語等）のタイトル	A Study on the First Stage of Townscape Design Administration in Industrial City Muroran
著者	大坂谷　吉行
雑誌名	日本都市計画学会学術研究論文集
巻	35
ページ	673-678
発行年	2000
URL	http://hdl.handle.net/10258/1555

室蘭工業大学
学術資源アーカイブ
Muroran Institute of Technology Academic Resources Archive

工業都市室蘭における初動期の都市景観行政に関する報告

その他（別言語等）のタイトル	A Study on the First Stage of Townscape Design Administration in Industrial City Muroran
著者	大坂谷　吉行
雑誌名	日本都市計画学会学術研究論文集
巻	35
ページ	673-678
発行年	2000
URL	http://hdl.handle.net/10258/1555

113. 工業都市室蘭における初動期の都市景観行政に関する報告

A Study on the First Stage of Townscape Design Administration in Industrial City Muroran

大坂谷吉行*
Yoshiyuki Osakaya

Townscape Design Administration in Muroran City started in 1992. Both questionnaire on citizens' consciousness for townscape and survey for finding townsacpe resources were firstly carried out. Additional survey was also done for making Townscape Master Plan. Townscape Discussion Committee gave advice and requested a series of survey and was reorganized into Official Townscape Committee in 1995. Under control and leadership of the new committee, Townscape Master Plan was completed in June 1997. Its Townscape is characterized fine landscape of natural coast, port and huge factories.

Keywords : Townscape Design Administration, Townscape Master Plan, Industrial City
都市景観行政、都市景観形成基本計画、景観類型、工業都市、港湾都市

1．研究の背景と目的

都市景観行政について、全国の先進事例を見ると、横浜市は1965年に都市美対策審議会を設置し、1971年に都市デザイン担当グループを配置した。また、同年には盛岡市がデザイン専門委員会を設置した。1972年には京都市と高山市が市街地景観条例を制定し、1978年には神戸市が神戸市都市景観条例を制定し、景観形成市民団体に関する規定を盛り込んだ。1981年には千葉市が都市美構想、広島市が都市美計画、1983年には盛岡市が都市景観形成基本計画をまとめている[1]。その後、多くの都市が都市景観に関する審議会や委員会の設置、都市景観基本計画の策定、都市景観条例や要綱の制定、景観整備モデル事業等をしている[2)3)4)5)6)]。

室蘭市は1992年に都市景観行政に取り組み始め、1997年に『都市景観形成基本計画』[7]が完成しているので、全国の先進事例に比べると10年から20年遅れている。また、北海道の人口10万人以上の主要都市の都市景観行政への取り組み[8)9)10)]に比べても、室蘭市の取り組みは5年程度遅れて始まった。

全国的に見て、景観行政への取り組みが早かった市町村は、政令指定都市、歴史的町並みを有する市町村、全国的に有名な観光資源に恵まれた市町村が多く、一般的に工業都市やこれといった景観資源や観光資源に乏しい市町村では、景観行政への取り組みが遅れているという評価が見られる。しかし、どの市町村においても、調査すれば、そのマチのアイデンティティになり得るような景観資源を見い出すことは可能と考える。

工業都市室蘭の初動期の都市景観行政に深く関与した立場から、本研究の目的を以下のように設定した。

① 工業都市というイメージが強い室蘭市が都市景観行政に取り組むことになった事情を明らかにする。特に港湾都市、工業都市として発展してきた室蘭市の歴史の中で、都市景観行政の位置づけを明らかにする。

② ①と関連し、室蘭市の都市景観行政への取り組みが遅れた事情を明らかにする。

③ 初動期の都市景観行政の実施体制と一連の調査報告書等から、室蘭市における都市景観行政の初動期の実態を明らかにする。

④ 都市景観形成基本計画に至る一連の活動から、室蘭市の都市景観の特徴を明らかにする。

⑤ 室蘭市における初動期の都市景観行政を総括する。

2．室蘭市の初動期の都市景観行政

(1) 室蘭市の歩み

室蘭市は、鉄鋼業を基幹産業とする工業都市として、明治以降、日本の近代化とともに発展した。太平洋戦争直後に一時的な落ち込みがあったが、戦後の復興とその後の日本経済の高度成長による恩恵を受けて発展した。室蘭市は地形的に平地が少ないことから、室蘭港に面した丘陵地が開発され、斜面緑地が失われた。この時期は室蘭市の発展期であり、公害防止緑地の造成や室蘭八景の選定（1970年）を除くと、景観に関係した動きは見られなく、自然破壊にも寛容であった。そして、1969年7月の住民基本台帳人口は 184千人を記録したが、これをピークに人口は減少していった。即ち、1971年のドルショック、1973年の第1次石油危機、1979年の第2次石油

*正会員　室蘭工業大学建設システム工学科(Muroran Institute of Technology)

危機、その後の急速な円高に伴って基幹産業の人員合理化が相次いだことから、大幅な人口減少が続いた。

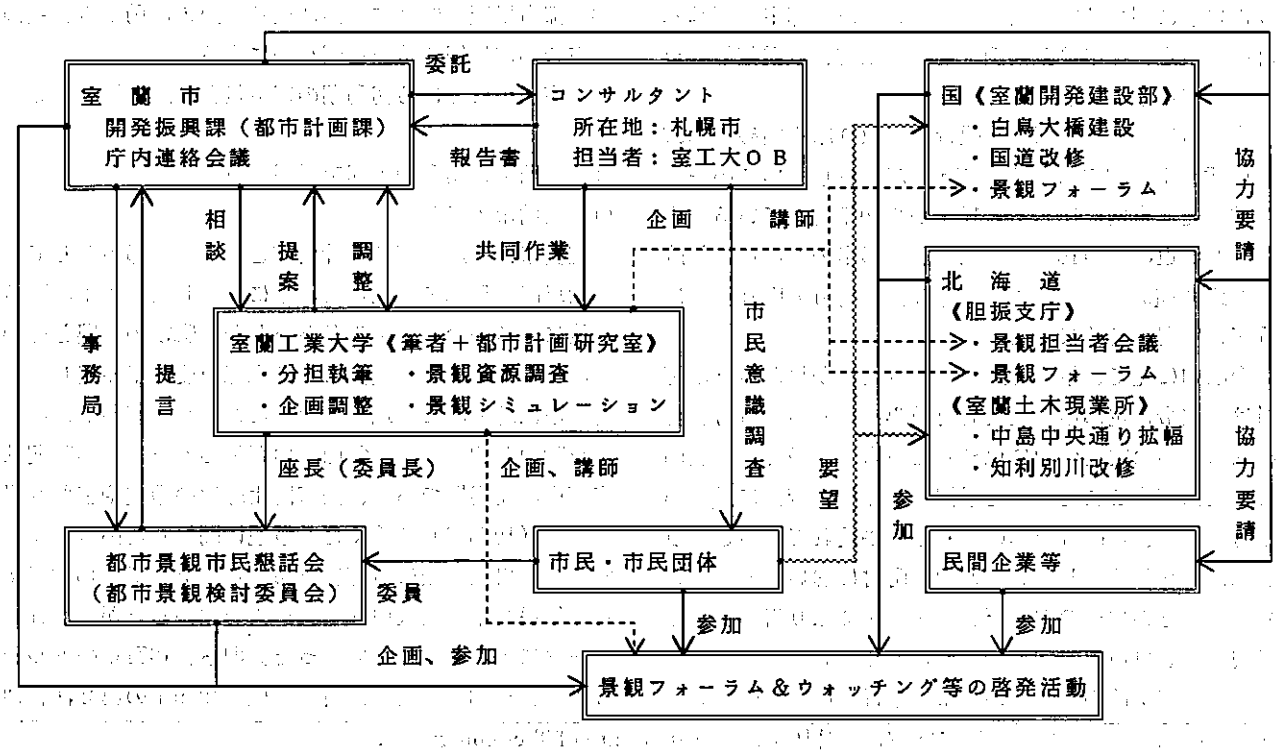
1971年のドルショックから1990年にかけての時期は、明るい話題に乏しかったが、1985年に朝日新聞北海道支社が行った「北海道自然百選」で地球岬が第1位に選ばれた。北海道電力が1988年夏に測量山のテレビ電波送信塔をライトアップし、市民に好評だったことから市民団体「室蘭ルネサンス」が「希望の灯」として、ライトアップを市民の浄財で継続することになった[11]。新日本製鉄の最後に残った高炉1基の存続が1991年に決定し、大幅な人口減少に歯止めがかかったが、その後も高齢化・少子化の進行から、人口の微減傾向が続いている。

(2) 初動期の都市景観行政の経過

こうした状況の中、1992年になって、室蘭市が都市景観行政に取り組み始めた。即ち、同年に室蘭市開発振興課に都市景観担当（ただし、専任ではない）を置き、庁内連絡会議で都市景観行政の進め方について議論が交わされた。そして、平成5年度予算に都市景観に関わる調査費が計上され、『都市景観市民意識調査』[12]と『室蘭市都市景観現況調査』[13]が実施され、1994年3月に各報告書が提出された。また、1993年10月8日に「景観フォーラム＆ウォッチング」が開催され、同年11月30日に「室蘭市都市景観市民懇話会」が設置された。平成6年度には、『室蘭市都市景観形成基本計画調査』[14]が実施され、1995年3月末に報告書がまとまった。1995年6月29日、室蘭市都市景観市民懇話会は、『室蘭の都市景観に関する提言書～魅力ある室蘭の景観をめざして』[15]を市長に提出して解散した。次に1995年9月29日に「室蘭市都市景観検討委員会」が発足した。平成7年度に『室蘭市都市景観形成基本計画案』[16]が実施され、1996年3月末に報告書がまとまった。平成8年度には、『室蘭市都市景観形成基本計画』の策定業務が行われ、1997年3月末に完成した。その後、庁内連絡会議の意見を受けて、微修正があり、同年8月の都市景観検討委員会に報告、了承された。各年度の調査報告書の内容は後述する。今後の都市景観整備は、室蘭市都市景観形成基本計画に基づいて進められることになった。

(3) 初動期の都市景観行政の推進体制

室蘭市の初動期の都市景観行政の推進にあたっては、図－1に示したように室蘭市、都市景観市民懇話会（後の都市景観検討委員会）、室蘭工業大学、コンサルタント（所在地：札幌市）、市民団体、民間企業、国（室蘭開発建設部）、北海道（胆振支庁、室蘭土木現業所）等が連携・協力する体制がとられた。筆者は、室蘭市都市景観市民懇話会座長と室蘭市都市景観検討委員会委員長を務めた。また、筆者の研究室が景観資源調査や景観シミュレーションを分担し、報告書の一部を執筆した。また、都市景観に関する市民（企業を含む）の理解や意識の向上を目的とした景観に関するフォーラムやシンポジウム等の企画に関与し、コーディネーター等を務めた。



図－1　室蘭市における初動期の都市景観行政の推進体制

① 室蘭市都市景観市民懇話会

室蘭市都市景観市民懇話会は、庁内連絡会議の議論及び景観フォーラムの提言を受けて設置された。懇話会は1993年11月30日の第1回から1995年6月29日の第11回まで開催され、『室蘭の都市景観に関する提言書～魅力ある室蘭の景観をめざして』を市長に提出し、解散した。

② 室蘭市都市景観検討委員会

1995年7月1日の機構改革以後に都市景観を担当している都市計画課に「室蘭市都市景観検討委員会」が設置され、市民懇話会委員の大半が移行した。『室蘭市都市景観形成基本計画』の策定業務を委員会方式で進めることを目的にしていた。1995年9月29日の第1回から1997年8月22日の第10回まで開催された。

(4) 都市景観行政への取り組みが遅れた事情

室蘭市都市景観市民懇話会は、全国の先進都市や北海道の他都市の都市景観行政を学習するとともに室蘭市の都市景観行政への取り組みが遅れた事情についても議論した。その議論をまとめると、以下のようになる。

① 最大の要因は経済的要因である。即ち、1990年代初めまでの基幹産業の相次ぐ合理化に伴う大幅な人口減少への対応に追われて、室蘭市は都市景観行政に取り組む余裕が無かった。

② 次は歴史的要因で、太平洋戦争末期の戦災、戦後の復興期と高度成長期の日本経済と歩調を合わせた発展による建築物のスクラップ＆ビルドが急速に進んだために函館市や小樽市に比べて歴史的建造物が少なく、また、数少ない歴史的建造物も散在していた。

③ 室蘭港は、工業港という性格が強く、函館港、小樽港、釧路港のような「港町情緒」に欠けていた。

④ 室蘭市内には地形的条件から、札幌市の豊平川、旭川市の石狩川水系、帯広市の十勝川水系、釧路市の釧路川のようなシンボルとなる大きな河川がなかった。

⑤ 室蘭市内には既成市街地内に札幌市の大通り公園のような市民の憩いの場となるような空間がなかった。

⑥ 1970年以降、北海道の主要都市の中で、室蘭市のみが大幅に人口が減少したので開発圧力が弱く、また、絵鞆半島や室蘭岳山麓の自然は、市街化調整区域や都市計画区域外で、自然景観保全が概ね容易であった。

(5) 都市景観行政に取り組み始めた事情

室蘭市に限らず、北海道は豊かな自然に恵まれていることから、全国（北海道を除く）に比べて、景観行政への取り組みが遅れていた。1980年代後半になって北海道が「北のまちづくり」の中に景観行政を位置づけ、景観行政担当を置き、1990年には「景観ガイドプラン策定マニュアル」[7] を作成し、「景観フォーラム＆ウォッチング」への助成や景観アドバイザー派遣制度を設けた。また、函館市、釧路市、帯広市、小樽市、旭川市、札幌市等の北海道の主要都市が景観行政に取り組み始めた。

都市景観市民懇話会や市民向けのフォーラム等における議論を踏まえて、全国の先進都市や北海道の主要都市に遅れながらも、1992年に室蘭市が都市景観行政に取り組み始めた事情をまとめると、以下のようになる。

① 取り組みが遅れた最大の原因である「基幹産業の合理化に伴う大幅な人口減少」に歯止めがかかり、都市景観行政に取り組む余裕が生まれた。

② 次に北海道や北海道内の主要都市の都市景観行政への取り組みに刺激されたことがあげられる。

③ 1970年に選定された「室蘭八景」の過半は絵鞆半島の自然海岸景観であり、1985年に地球岬が「北海道自然百選」の第1位に選ばれたが、1991年に始まった同半島沖のイルカ＆クジラウォッチングが北海道内外の観光客や市民に好評であり、それに伴って、室蘭市民の自然海岸景観の評価がさらに高まった。

④ 1988年に始まった測量山のライトアップを継続する市民運動から、もっと室蘭の魅力を高めようとする市民意識が生まれた。1993年末から始まった白鳥大橋のイルミネーションも都市景観への関心を盛り上げた。

⑤ 1985年着工の白鳥大橋主塔が1992年9月に完成し、1998年6月の開通に向けて、白鳥大橋を室蘭の新しいシンボルと見る市民意識が醸成されていく中、白鳥大橋を都市景観の面からも位置づける必要性が生じた。

⑥ 室蘭港は、基幹産業の工場用地、埠頭、倉庫が水際線の大半を占め、市民に開放された水際線は限定されていた。しかし、エンルムマリーナの開業（1992年4月）やフェリーターミナルビルの完成（1994年4月）及び白鳥大橋の開通に合わせた展望公園整備や港湾計画改訂による臨海公園計画が、室蘭港の景観への関心を高めた。また、1998年に開催された「英国探検船プロビデンス号の来航 200周年祭」も、港口の大黒島に同船乗組員が埋葬された歴史的経緯から、市民の港の景観への関心を高めた。

⑦ 新しい室蘭駅が1997年10月に開業し、ＪＲ北海道から室蘭市に譲渡された旧室蘭駅（1912年完成）が歴史的建造物として保存されることになった。

⑧ 都市景観行政は単に景観整備を進めるだけでなく、室蘭市の魅力をアップさせて、マチの活性化につながることが、市民や商業者等に認識された。

3．都市景観形成基本計画関連の報告書の概要

『室蘭市都市景観形成基本計画』策定は、初動期の都市景観行政の目標であった。これに向けて一連の調査が実施されたので、各年度の報告書の概要を次頁に示す。

(1) 都市景観市民意識調査報告書（平成５年度）

室蘭市内に居住する満20歳以上の男女 1,305人を対象に郵送でアンケート調査を行い 647人から回答を得た。問１の「あなたは室蘭のまちが好きですか」は、「好き」が38.2%、「どちらかと言えば好き」が25.7%と、まちに好感を持つ人が６割を超えている。問２の「あなたは室蘭のまちを美しいと思いますか」は、「美しい」と「まあ美しい」が31.7%、「美しくない」と「あまり美しくない」が41.4%と、否定的な回答が多かった。

問３の「室蘭のまちの印象」では11項目の印象を尋ねた。「親しみ」と「港を取り囲む景観」は肯定的回答が過半数を超えている。逆に「あかぬけさ」、「活気」、「整然さ」、「潤いやゆとり」は、否定的回答が過半数を超えている。問４の「室蘭のまちなみや景観で良いと思う地域や場所」では、トッカリショや地球岬の自然や眺望、室蘭港や工場群の夜景、マスイチ浜や絵鞆岬の外海の自然や眺望等、室蘭八景をあげる回答が多かった。自然景観や公園が多く、上位10位以内に入ったまちなみ景観は、街路整備で電線類の地中化が一部で実現した東室蘭駅西口通り（９位）のみであった。問５の「今後、まちなみや景観を積極的に保全したり、整備する方が良いと思う場所」では、旧室蘭駅舎と周辺のまちなみという回答が14%と、最も多かった。

問６の「室蘭のまちのイメージ」では、①海と港のまち（31%）、②工業のまち（27%）、③坂のまち（22%）の３回答で80%に達した。問７の「まちの美しさを損ねているもの」では、①空き地や空き店舗（30%）、②手入れされてない古い建物（18%）、③まちに捨てられたゴミ（13%）、④路上駐車（13%）、⑤まちなかに緑が少ない（11%）が多く、これらで85%に達した。他都市と比べて、電柱や看板の指摘は少なく、空き店舗や老朽建物の指摘が多いところに室蘭の特徴が現われている。

問８「まちを美しく、うるおいがあるようにするためには」では、①自然環境や景観の保全を積極的に進める（14%）、②都心部に室蘭らしさを表現（13%）、③遊歩道や憩いの場の整備（12%）の回答が多いが、特定の回答への集中はなかった。問９の「景観整備の進め方」では、「地域住民、民間団体、企業、行政が協力してルールづくりや整備を進める」が、59%と多かった。問10の「景観整備に対する協力」については、「積極的に協力する」が29%、「ある程度協力する」が57%と、肯定的回答が８割を超えた。問11では回答者の家の近くのまちなみや景観が良い場所を自由に記入してもらった。

この調査の目的である都市景観に関する市民意識の把握は十分に達成された。また、問11の自由回答は次に述べる現況調査の景観資源の洗い出しにも役立った。

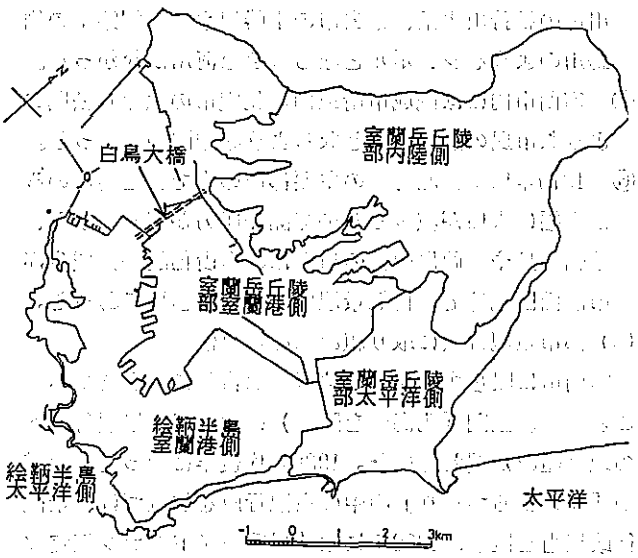
(2) 室蘭市都市景観現況調査報告書（平成５年度）

第１章の「調査の目的と意義」及び第２章の「室蘭市の概況」を受けて、第３章では、景観構成要素や景観資源を幅広く抽出し、整理した。第４章の「室蘭市民が持つ都市のイメージ」では、「都市景観市民意識調査」の概要をまとめた。第５章では、室蘭市の景観構造が図－２のような構造をしており、このことが室蘭の景観を特徴づけていると指摘している。即ち、室蘭市は地形上、絵鞆半島と室蘭岳丘陵部に分けられ、さらに微小地形として平地や沢地（昔は入江）が入り組んでいる。また、絵鞆半島と室蘭岳丘陵部ともに稜線で太平洋側と室蘭港側に分けられるが、前者は自然海岸景観、後者は港湾や巨大工場群や市街地の景観であり、景観が大きく異なっている。また、室蘭岳丘陵部の内陸部は上記と異なった自然緑地景観が見られる。また、室蘭の自然条件や地形条件を踏まえて、地区（室蘭市は行政上、９地区に分かれている）毎の景観特性を明らかにした。第６章では、都市景観関連制度及び先進事例をまとめた。

現況調査の主たる目的は、景観資源の洗い出しと景観構造の把握であり、十分に達成された。市民懇話会においても自然景観が高く評価されたが、市街地景観の特性の把握や評価は、自然景観に比べて不十分であった。

(3) 室蘭市都市景観形成基本計画調査報告書（６年度）

第１章では、目的や経緯をまとめた。第２章では、都市景観現況調査を踏まえて室蘭市の景観類型や景観構造を再整理した。都市景観市民意識調査を踏まえて市民意識や課題を再整理した。次に都市景観形成の基本理念、基本方針及び市民向け標語の試案を検討した。第３章では、地区別の景観特性と課題を踏まえて、主要な景観構成要素、景観形成の考え方、景観形成の重点地区を検討



図－２　室蘭市の景観構造

した。第4章では、各種修景手法を組み合わせて、主要地点の修景シミュレーションを行った。第5章では、今後の取り組み、市民参加、課題について検討した。

前年度に比べて予算が大幅に削られたので、前年度に実施した2本の調査結果をさらに吟味することにした。市民懇話会の議論も、前年度に議論が不十分であった市街地景観の特性の把握や評価に重点が置かれた。

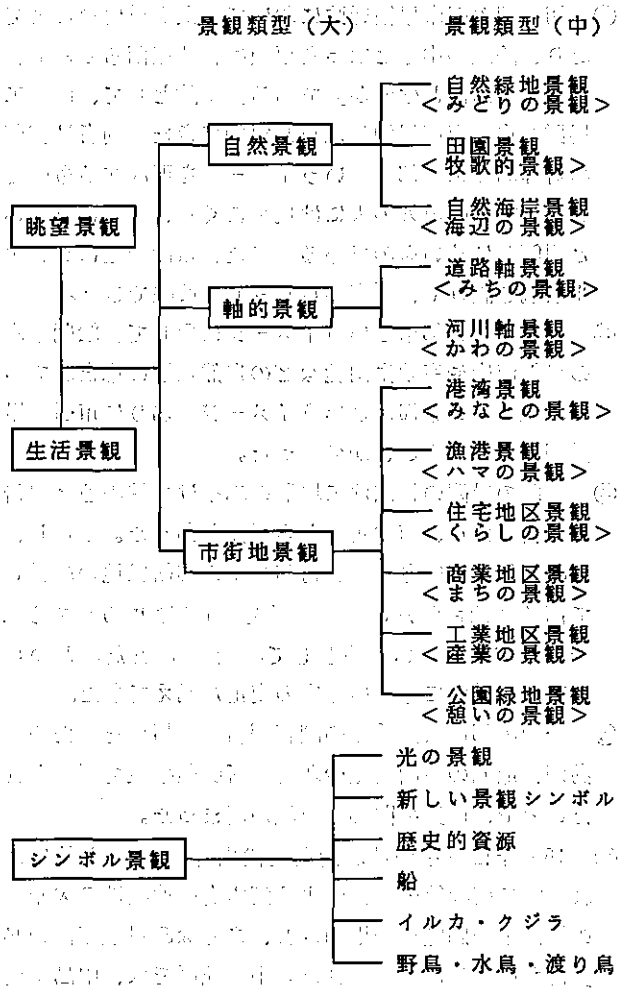
(4) 室蘭市都市景観形成基本計画案（平成7年度）

第1章では都市景観形成基本計画の目的や位置づけを示すとともに取り組みの経緯を整理した。第2章では、都市景観市民懇話会の提言『魅力ある室蘭の景観をめざして』を取り込んだ。次に室蘭市の個性や特徴を反映させた景観類型と類型別の景観特性と課題を整理した。第3章では、市民懇話会の提言を踏まえ、都市景観形成の基本理念を『もっとむろらんが好きになる』とした。次に都市景観形成の目標を①室蘭らしさの創出、②自然と産業の調和、③快適都市の実現、④歴史の継承と文化の育成とした。都市景観形成の基本方針は、①市民の財産としての景観づくり、②市民の参加による景観づくり、③時が育む景観づくりとした。第4章では、第2章の景観類型の中から典型的な事例を対象にして、景観の現況と景観形成の課題を整理し、景観形成指針と修景手法を検討し、さらに景観シミュレーションを行った。対象地区は景観関連事業検討中の地区や代替案を検討しやすい地区を選定した。また、修景手法は、①まもる、②そだてる、③つくる、④ととのえる、⑤とりのぞく、⑥かくすに分けて、チェックリスト化した。第5章では、都市景観形成の誘導方策や各種制度を整理するとともに今後の景観施策の展開について検討した。

当初、室蘭市は3年目に当たる平成7年度に「都市景観形成基本計画」を完成させる意向であった。しかし、年度途中に景観担当が開発振興課から都市計画課になったことや市民懇話会から都市景観検討委員会へ移行したこと及びもっと室蘭らしさを強調した基本計画にするためには拙速を避け、さらに議論を深めるべきと判断したことから、翌年度に持ち越され、基本計画の後に「案」を付けて報告書をまとめた。

(5)室蘭市都市景観形成基本計画（平成8年度）

副題は『もっとむろらんが好きになる』である。序章では都市景観形成基本計画の目的や意義を述べている。第1章では、室蘭市の概況に続いて、室蘭市の景観特性と景観構造、地区別の景観特性と課題を整理している。概ね、前年度までの成果を踏襲しているが、都市景観検討委員会や庁内連絡会議の意見を踏まえて微修正を加えた。第2章では、都市景観形成の基本理念、目標及び基本方針を示し、市民にわかりやすくするために字句や用語を平易なものに変更する等の微修正を加えた。第3章では、室蘭市の景観類型と景観類型別の景観形成の基本的な考え方を示した。都市景観検討委員会で最も論議したことは、『室蘭らしさ』を意識した個性ある景観類型をつくることであった。図－3が最終的な室蘭市の景観類型である。景観類型（大）の自然景観、軸的景観、市街地景観は、前年度の基本計画案と同じであったが、もっと室蘭らしさを出せないかという意見が相次いだ。自然景観、軸的景観、市街地景観は、地図上に表現できるが、表現できないものの扱いが議論された。その結果、シンボル景観というカテゴリーが考え出された。光の景観は、室蘭港の夜景や測量山のライトアップ等である。地図上では昼と夜の区別を表示できない。新しい景観シンボルは、1998年6月13日に開通した東京以北最長の吊橋『白鳥大橋』である。歴史的資源は、旧室蘭駅や瑞泉閣等であるが、市内に散在していることから設けた類型である。船は、室蘭港が工業港かつフェリー港であり、出船・入船が多いことから設けた類型である。イルカ・クジラは、ウォッチングが室蘭観光の目玉であり、外海



図－3　室蘭市の景観類型（最終）

観光船が人気があることから設けた類型である。野鳥・水鳥・渡り鳥は、雄大な自然海岸（100m前後の高さの断崖）に生息するハヤブサに代表される種々の鳥の観察スポットがあることから設けた類型である。次に景観類型別の景観形成の方向を示すとともに修景手法のチェックリストを付けた。第4章では、景観類型別の景観形成指針を示した。第5章では、前年度の景観シミュレーションを踏まえて、類型別に景観整備地区を設定し、整備イメージを提示した。第6章では、都市景観形成の誘導方策や各種制度を整理するとともに今後の都市景観施策の展開について言及した。

もっと室蘭らしさを出すことは、前年度になかったシンボル景観を景観類型に設けることで達成された。

4．初動期の都市景観行政の総括

① 室蘭市の都市景観行政への取り組みは、北海道主要都市に比べて遅れて始まったが、5年間で『都市景観形成基本計画』が完成し、今後、同計画に基づいて総合的に進めていく体制が整えられた。従って、初動期の都市景観行政としては成功したと考える。

② 初動期の都市景観行政において、最も重要なことであり、論議の中心となった事項は、「室蘭らしさ」、「室蘭の個性とは何か」である。結論として、巨大工場群と自然海岸景観に意見が集約できた。前者は室蘭の対外的な工業都市というイメージを形成するものであり、後者は市外の人には見えにくく、実際に見ないと理解しにくいものである。また、景観類型にシンボル景観を設けて、「室蘭らしさ」を反映できた。

③ 室蘭は工業都市というイメージに反して、絵鞆半島の自然海岸や室蘭岳山麓などの自然景観に恵まれている。他方、工業都市というイメージどおりに市街地景観が見劣りすることが分かった。

④ 室蘭の景観の特徴は工場群の赤茶けた鉄の色と報告書に書いたら、市や企業から反発があった。しかし、1960年代に造成された公害防止用の緩衝緑地が成長して高く評価されたこと[18]や製鉄所をはじめとする工場群が室蘭らしい景観として評価[19]されたことから、企業の意識面にも良い方向の変化が見えてきた。

⑤ 一連の都市景観関係の調査報告書の概要その他の活動が、地元の室蘭民報や北海道新聞胆振版で報道されたことで、市民の関心や意識が高まった。

⑥ 1995年に『室蘭地域商業近代化計画』[20]が策定され、空き店舗等の散在による商店街の連続性の欠如等の景観上の問題点が指摘され、まちなみ景観整備の必要性が商業者に認識された。中島地区では、中島中央通り各幅事業に伴って地区計画が適用され、地区計画で定められない事項をまちづくり協定で規定した。そして、個店の新築や建替の建築確認申請前に「中島街並み形成委員会」のチェックを受ける体制ができた。

⑦ 中島地区を流れる知利別川の改修工事では市民の意見を採り入れて、イベント橋「らん蘭橋」や河岸プロムナードが整備された。

⑧ 室蘭市の最盛期に建てられた建築物の多くが建替時期を迎えている。景観への関心が高まり、建替に際して、公共建築だけでなく、民間建築にも景観や周辺環境に配慮したものが増えてきた。

⑨ 室蘭市の発展期に斜面緑地をつぶして造成され、人員合理化後に放置されていた社宅跡地の緑化事業が、自然の復元を目ざして1998年に始まった。

⑩ 室蘭市は市民参加の面でも他都市より遅れていた。都市景観市民懇話会が初めて委員を公募した後に各種審議会や委員会にも公募委員が加わるようになった。

⑪ 室蘭市に限らないが、都市景観形成基本計画は、景観整備のスタートであり、ゴールではない。住民参加による地区景観の目標や整備計画づくりを進め、各地区のまちなみ景観整備の主体的な取り組みを支援していくことが今後の課題と言える。

《参考文献・参考資料》

1) 大坂谷吉行（1985），日本の都市景観整備施策の概要 「都市計画」第134号 pp.88～101
2) 荒 秀 編（2000），「景観～基本計画づくりから実際例まで」 ぎょうせい ※ 加除式の最新版による
3) 日本都市計画学会（1985），特集：まちづくりと景観整備 Part.2 「都市計画」第138号
4) 日本都市計画学会（1990），特集：都市デザイン 「都市計画」第166号
5) 日本都市計画学会（1995），特集：景観研究と景観創造 「都市計画」第196号
6) 日本都市計画学会（1998），特集：景観・デザインの展望 「都市計画」第213号
7) 室蘭市（1997），室蘭市都市景観形成基本計画
8) 釧路市（1991），釧路市都市景観形成基本計画
9) 帯広市（1992），帯広市都市景観基本計画
10) 旭川市（1992），旭川市都市景観基本計画
11) 室蘭市（1994），ふるさと室蘭ガイドブック
12) 室蘭市（1994），都市景観市民意識調査報告書
13) 室蘭市（1994），室蘭市都市景観現況調査報告書
14) 室蘭市（1995），室蘭市都市景観形成基本計画調査報告書
15) 室蘭市都市景観市民懇話会（1995），同懇話会提言書「魅力ある室蘭の景観をめざして」
16) 室蘭市（1996），室蘭市都市景観形成基本計画案
17) 北海道（1990），景観ガイドプラン策定マニュアル
18) 大坂谷吉行、平子貴俊（1997），室蘭市の主要幹線道路の街路樹の現況と都市景観整備に関する研究 日本建築学会技術報告集第5号 pp.236～241
19) 輪西地区活性化推進協議会（1998），子孫に残したい・・・輪西の将来を描く～輪西地区の活性化に向けた提言～
20) 室蘭商工会議所（1995），室蘭地域商業近代化計画報告書